

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：17201

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12786

研究課題名(和文) ケニア農村地域における女性高齢者ケアに関する人類学的研究

研究課題名(英文) Anthropological Research on Elderly Women's Care in Rural Area in Kenya

研究代表者

宮地 歌織 (Miyachi, Kaori)

佐賀大学・芸術地域デザイン学部・客員研究員

研究者番号：40547999

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、将来急激な高齢化を迎えるとされるアフリカ社会において、現在の高齢者ケアの実態を解明することを目的として、現地での調査を行った。本調査では、2つの地域(西ケニアのキシイ県、東ケニア・海岸部のクワレ県)での女性の高齢者を対象に、人類学的手法を用いた質的な調査と、運動量や歩数をカウントするライフコーダという運動習慣測定器を用いて高齢者の生活を量的に把握するという二つの手法を用い、データ収集を行った。クワレ県においては60歳以上の女性高齢者30名に対して継続的に訪問を行うことで、高齢女性に対するケアの実態を把握することができた。これら研究成果については、論文や国内外の学会にて報告された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the research was to investigate the current situation on the care for the elderly women in rural area in Kenya, where it would be estimated to be the rapid aging societies in the future. Under this research, there were two research area, one was Kisii County in western Kenya, and the other one was Kwale County in castral area (east part) in Kenya. The unique point of this study was to combine the qualitative and quotative method with anthropological research and using the device called "Lifecoder" to count the steps and strength of activity. In Kwale, 30 elderly women over 60 years were involved with this research and families were also collaborated. The result of the research was published in 2 articles and presented at the national and international conferences.

研究分野：社会人類学

キーワード：高齢者 女性 ジェンダー ケア アフリカ ケニア

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、今後予測されているアフリカにおける急激な高齢化に対し、ケニアの農村部において現在の高齢者の生活やケアの実態解明の必要性という立場にもとづき、調査研究を実施した。

まず、アフリカにおける急激な高齢化への懸念という点では、アフリカ諸国では MDGs の取組もあり、乳幼児死亡率が低減し、多産多死から多産少死、そして少産少死という人口転換の流れが起きてきた。ただし年金制度や医療保険、また介護システムが整わない中での高齢化は、それぞれの国内における政治・経済的格差、とりわけ医療や社会保障の格差を顕在化させ、社会システムそのものの不安定化をまねく恐れがあることが指摘されている (Eyassu et.al. 1987)。世界規模の高齢者社会への対策として「高齢化に関するマドリッド国際行動計画 2002」が採択され、UNPFA (国連人口基金) による報告書 (2012) では特に高齢女性の貧困化が懸念されている。

次に、農村地域における高齢者ケアの実態解明の必要性という点であるが、経済のグローバル化はアフリカにおいても急激な経済発展と都市化の進展をもたらしたが、人口の都市への流入により農村地域における家族ネットワークが弱体化し、高齢者を社会的に周縁化させてしまうと言われている。また Cohen (2006) によれば、アフリカで進行する高齢化に対し、変化する社会関係や家族関係における高齢者の有り方の統計的、経験的データの必要性が指摘されている。

## 2. 研究の目的

アフリカ地域では高齢化社会を支えるための医療保険、年金、介護システムなどが未整備の状態であり、急激なライフスタイルの変化、グローバル化により伝統的な家族支援などの社会・文化も変容しつつある。農村では女性の土地や資本へのアクセスが伝統的な慣習により制限されており、さらに高齢の寡婦の貧困等も懸念されている。そこで本研究では、ケニアにおける女性高齢者ケアの実態について質的、量的な調査を実施し現状を把握することを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究はケニアにおける高齢者の生活、ケアについての実態把握を、人類学的な質的側面と量的側面から行うという点が特徴的である。研究代表者はこれまでケニアの農村部にて人類学的調査研究を実施してきた (Miyachi 2014、宮地 2014 ほか)。高齢者の生活については民族誌の中でも記述され

てきたが、これからの高齢化対策という視点と、女性の高齢化に伴う貧困化という世界的なジェンダーの課題に対し、インタビューや参与観察等の人類学的手法により実態把握に努めた。

具体的には、本研究の調査対象地は、西ケニアのキシイ県、および東ケニア (海岸部) のクワレ県であり、調査対象者は高齢者女性 (60 歳以上) ならびにその家族とした。

初年度はケニアで調査をするための調査許可書の申請、ならびに各県での調査許可を得るために両県を訪問した。また実際に数名の方に協力を依頼し、パイロット的にライフコーダによる活動実施記録を収集し、またケアについてインタビュー調査、ならびに参与観察を行った。ライフコーダのデータ収集や分析については、これまで西田 (研究分担者) の協力のもと、翌年の本格的な調査に向けて調査の課題を検討した。

2 年目は、クワレ県におけるケニア保健省の調査機関である KEMRI (Kenya Medical Research Institute) の協力を得ることができ、30 名の女性高齢者に対し、インタビュー調査ならびにライフコーダの調査を実施した。

3 年目は上記調査やデータのとりまとめを実施し、また補足的なフィールドワークも行った。それら調査結果は、論文や国内外の学会等で発表を行った。

## 4. 研究成果

これまで「家族が高齢者のケアをする」と考えられてきたが、クワレ県での調査からは、農村での女性高齢者のケアについては、様々な社会的・経済的要因が伴い、十分なケアや社会保障制度が行き届かず、貧困の上にさらなる生活上も問題も課題となっていることが明らかになった。

特にジェンダー的な視点からは、一夫多妻制のもと、男性の場合は自分自身より若い妻や息子家族に最後までケアをされるが、妻の場合は、寡婦になり夫の後ろ盾を失うことで、立場が弱く生活も不安定になるケースも見られた。また、高齢者に対するケアの状況は、息子や娘の経済状況にも左右されるが、各家庭によりケアの手厚さはまちまちであった。また都会や海外に出稼ぎにいく若い人も多く、子どもの世話を農村の祖父母に任せるケースも多々あった。一方、糖尿病などにかかり生活が不自由な祖母のケアを担っている小学生もいた。

また本地域は HIV/AIDS の患者もおり、孤児になった孫の世話をする祖母もいる。また女性高齢者自身にも HIV/AIDS 感染が疑われるケースもある。

クワレ県での 30 名という限られた数の調査対象者であったが、農村においても高齢者女性のケアを巡っては様々なケースがあっ

た。もともと貧困世帯の多い地域でもあるため、それに加え、高齢化や出稼ぎなどの社会変化が、高齢者の今後の生活に対して大きな影響をもたらすことが大いに予想される。

ケニア政府は2018年1月より高齢者に対する年金給付を開始することを昨年決定しているものの、手続きの煩雑さなどの壁がある。今後のこれら年金制度や家族のあり方などについて引き続き調査研究を実施予定である。

#### <引用文献>

Eyassu Habte-Gebr, N.S. Blum & I.M. Smith 1987 “The Elderly in Africa”, *The Journal of Applied Gerontology*, 6(2): 163-182.

UNFPA 2012 『21世紀の高齢化：祝福すべき成果と直面する課題—Ageing in the Twenty-First Century: A Celebration and A Challenge—』 United Nations Population Fund

Cohen, B. and J. Menken (eds.) 2006 *Aging in Sub-Saharan Africa: Recommendation for Furthering Research*, The National Academies Press.

宮地歌織 2014 ケニア HDSS(Health Demographic Surveillance System)を活用した妊婦に関する人類学の予備的調査について、佐賀大学全学教育機構、第2号、43-50.

Miyachi, K. 2014 “Cultural Transformation: Socio-cultural Aspects of Female Circumcision among the Gusii People in Kenya”, *Nile-Ethiopian Studies*, 19: 1-15.

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

宮地歌織、ケニア農村部における女性高齢者のケアに関する一考察、地域ケアリング、2017、vol. 19(13)：60-66、査読有

宮地歌織、ケニアにおける高齢化 -- 農村に生きる女性たち(特集 TICAD VIの機会にアフリカ開発を考える)、2016、アジア研ワールド・トレンド、253：10-13 査読なし

[学会発表](計 6 件)

Miyachi, K. Nov. 2017 Anthropological Research on Elderly Women's Care in Rural Kenya, 第32回日本国際保健医療学会学術大会(東京大学)ポスター発表

Miyachi, K. Nov. 2017 Transition of Female Circumcision (FC)/ Female Genital Mutilation(FGM) in Kenya: A Case Study of Gusii People in Western Kenya, AP Conference, Ritsumeikan Asia Pacific University

宮地歌織、2017年1月 「女性と高齢化 アフリカ・ケニアの事例から」第1回佐賀大学ジェンダーイクオリティ研究所フォーラム(佐賀大学)

宮地歌織、2016年12月 「ケニアにおける女性高齢者の現状について」第31回日本国際保健医療学会学術大会(久留米シティプラザ)

Miyachi, K. Dec. 2016 Aging in Africa: The Life of Elderly Women in Rural Kenya, 6<sup>th</sup> African Forum, Kampala, Uganda

Miyachi, K. Aug 2016 Cultural Aspect on Female Circumcision among Gusii People in Kenya, AP Conference 2016 (Ritsumeikan Asia Pacific University)

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

#### 6. 研究組織

##### (1)研究代表者

宮地歌織 (MIYACHI, Kaori)  
佐賀大学・芸術地域デザイン学部・  
客員研究員  
研究者番号：40547999

##### (2)研究分担者

西田裕一郎 (NISHIDA, Yuichiro)  
佐賀大学・医学部・講師  
研究者番号：50530185

(3)連携研究者

野村 亜由美 (NOMURA, Ayumi)  
首都大学・東京人間健康科学研究科・  
准教授  
研究者番号：50346938